

自己評価及び外部評価票

【 事業所概要(事業所記入) 】

事業所番号	2092400023		
法人名	株式会社 ふれあいの里		
事業所名	ケアセンター ふれあいの里		
所在地	長野県上伊那郡箕輪町大字中箕輪14432-1		
自己評価作成日	平成31年1月20日	評価結果市町村受理日	平成31年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/20/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&IgyosyoCd=2092400023-00&PrefCd=20&Version
----------	---

【 評価機関概要(評価機関記入) 】

評価機関名	有限会社 エフワイエル
所在地	長野県松本市蟻ヶ崎台24-3
訪問調査日	平成31年3月5日

【 事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入) 】

- ・季節感を感じる取り組みや四季折々の歳月記を大切にしています。
- ・自由に行き来出来る畑スペースは花々や野菜など育てる楽しみ、収穫の喜びを感じる場となっています。
- ・併設事業所に自由に行き来できる事で余暇活動や社会交流の場として1日の幅が広がります。
- ・ご家族が自由に入出入り出来るよう、特に面会時間の制限をせず、来訪しやすい環境を作っています。
- ・終末期を迎える方に対し、ご本人の意思を最大限考慮させて頂いた上で医療機関(主治医、訪問看護)やご家族との連携を密に取り合い、安心して終末期を終えられるよう支援しています。

【 外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入) 】

新しい理念「ゆったり 一緒に 楽しく 豊に」を掲げ、時間を決めずに起きたい時に起きる、無理強いをしない、職員も一緒に楽しむ等の支援で、その実践を日々の記録で共有し、職員会議で意思統一を図り、カンファレンスでも振り返り深められている。そのため利用者は寄り添う職員と一緒に穏やかに過ごせており、家族が来訪しやすい環境づくりでは時間の制約もなく毎日のように訪れ、お茶やコーヒーでの歓迎とともに職員は利用者の生活の様子を伝え、家族から話を聞き要望をケアに繋げている。定期的な開催の家族会や行事への出席率も高く、家族アンケートでも満足度は高い。職員は家族との協力関係を築き、本人と家族の絆を深める役割を果たしている。委託を受けてのオレンジカフェ、地域の方の居場所づくりのふれあい交流の開催など、地域密着型サービスとしての機能拡大で利用者が地域の中で安心した生活が送れる環境の広がりとなりつつあり、果敢に取り組む事業所の今後に期待が膨らむ。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名(ふれあいの里 グループホーム)

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる。 (参考項目: 23, 24, 25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目: 9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目: 18, 38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目: 2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目: 38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目: 36, 37)	66	職員は、活き活きと働けている。 (11, 12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目: 49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目: 30, 31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目: 28)		

自己評価及び外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念に加え、事業所としての理念を掲げ運営している。 見やすい位置に理念を掲示して会議等でも確認し合いながら理念に添った実践を行っている。 月に1度は会議の場で共有している。	本人の望む生活を基本として理念の見直しを行い、今の現状に合った「ゆったり・一緒に・楽しく・豊かに」として、常に皆で話し合いながら、新たな理念に向けての取り組みを展開している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	施設行事に地域の方を招待したり、地域行事(地区のお祭り、運動会等)への招待を頂き、相互の地域交流の実施をしている。 役場からの委託事業でもあるオレンジカフェの開催(2か月に1度)や、ふれあい交流(地域の方が気軽に集まれる場所)を定期的に開催し、地域との交流を大切にしている。	施設行事、地域行事での交流は恒例となり、利用者の楽しみとなっている。 さらに、施設スペースにおいては町の委託を受けての「オレンジカフェ」を開催している。 地域の誰もが気軽に集まれる「ふれあい交流」開催など、新たな「顔の見える関係」づくりが始まっている。 また、地区の常会内清掃にも参加し、近所付き合いの広がりも図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症の学習会や公開講座を行ったり、認知症相談窓口も設置している。 オレンジカフェ等では、サポーター養成講座開催や、認知症介護実践者の講師として外部発信。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では利用者様の様子やサービスの状況を報告し意見や感想を頂いている。意見要望は部署会議で報告しサービスの向上に活かしている。 防災での協力や、地域の中の情報共有が出来る機会にしている。	運営推進会議メンバーが積極的に関り、地域と事業所のモニター役として効果をあげている。 防災訓練見学での貴重な意見と共に地域との協力体制拡大への取り組み、メンバーの声から始まった「ふれあい交流」での地域住民との新たな繋がり等、相乗効果が表れている。 事業所側も会議での意見把握のみでなく防災訓練後、他施設見学後、年間を振り返ってなど、アンケート方式でメンバーの声を積極的に集め、運営に活かす前向きな姿勢がみられる。	委員の任期終了後も地域の一員として支援してもらえる関係づくりは期待したいところである。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協係を築くよう取り組んでいる。	空き情報の報告、困難事例の共有等、積極的に取り組んでいる。町の事業である認知症カフェへの協力も積極的に実施。町社協との連携も密に実施させて頂き、認知症見守り団体へも登録している。	事業所、利用者の課題解決のための連携は構築されている。町委託で始まった「オレンジカフェ」は地域の方との交流の場と共に、認知症学習会、サポーター養成講座、個別相談等を実施するなど、認知症への理解を深める取り組みとなっている。 町担当者とともに社会福祉協議会の方にも運営推進委員になってもらい、関係はさらに進んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	高齢者虐待防止関連法について、全体会議での研修会を定期的開催。身体拘束に関しては、法人として身体拘束ゼロを開所より徹底している。身体拘束をしない為に出来るケアをチームで検討しながら実施。	「身体拘束0宣言」(ふれあいの里グループホームでは身体拘束を一切しません)を玄関に掲げ、広く内外に事業所の姿勢を示している。 契約書に「利用者の権利」として明記し、それに伴う「危険性」についても家族に説明し、同意と理解を得ている。職員の徹底の意識のもと、利用者は併設施設への自由な行き来、言葉の拘束や抑圧感のない生活を楽しんでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止関連法についての学習会を積極的に開催し虐待が見過ごされることがないように注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用して利用者を受け入れているため、制度について、年度始めと新規職員対象に学習会を開催。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に、契約書また重要事項説明書を丁寧に説明し、ご利用者、ご家族の不安や質問にも納得のいくまで相談に応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会、運営推進会議の中での意見、不満、苦情を聞きとっており運営に反映させている。 また、事業所、市町村、国保連の苦情相談窓口を重要事項に明記している。 家族に対しては家族会の開催に合わせてアンケートを実施することもある。	面会に来る家族が多く、その時間は家族の思いや意見を聞きだす機会と捉えている。そして、出された事項は全職員で共有し、話し合いがされている。 また、年4回の家族会議では、アンケート方式で事業所に対しての声を集める等、きめ細かな取り組みを行うなど、言いやすい環境は家族との信頼関係、協力関係の構築となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	部署会議でスタッフと話し合った内容を施設の運営を決定する会議へ報告し意見を反映している。 運営会議には介護職を兼任している管理者も出席しているため、意見を集約しやすい環境にある。年1～2回の個人面接も実施。	限られた職員配置の中で、利用者満足への支援をどう展開していくのかを考え、現場職員の声を大切に、ケアについての工夫や提案など、働きやすい環境整備に努めている。	福祉事業所同様の課題である人材確保の難しさ、そこに生じる職員への負担が思われる。 管理者は職員の意見・不安・悩みなどを述べるができる機会や環境を今以上に整え、働く意欲へと繋げる取り組みを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	努力、実績、勤務状況を踏まえたうえで現場状況を整えてはいるが給与水準、労働内容等不満もある。 代表者が常に現場を見ているわけではないので現状をどの程度理解した上での水準なのかの不満はまだある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設外研修に参加する機会も多く、全体会議での報告や社内研修にも役立っている。 施設内研修では、各管理者が指導者になり研修の機会を設けている。OJTの部分では課題が見られる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	施設外研修に参加する機会が多いので、交流する機会は多くある。情報共有はしているが、学習や相互間で職員同士の交流までは出来ていない状況。施設内外での人手不足も一つの原因となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所申込時に必ずご本人、ご家族に施設見学をして頂き、困りごとや不安な事等要望を聞き取っている。入所前にはご本人との対話等を通して思いなどの聞き取りをなるべく実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所申し込み時には見学をしていただきながらご家族が不安に感じていることや要望等にしっかり耳を傾け、入所申込理由を聞きとりしている。 現在の困りごとに対しては特に耳を傾けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人とご家族が今何を必要としているのかを見極め、当事業所が適切でないと判断した場合は他サービスを紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者様と共に楽しむことを念頭に、常に共同生活者として生活を楽しむことを心がけている。 尊敬の念は忘れない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	月一の通信新聞での情報提供にあわせ、一人一人に一ヶ月のありのままの様子をお伝えする手紙を入れてご家族との絆を大切にしている。家族会の開催を行ったり一緒に外出レクを楽しんでいただける機会を作っている。また、気軽に面会しやすい環境作りにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人がこれまで大切にしてきた馴染みの関係が途切れないように施設での面会や行事への参加、外出支援を行っている。施設内が他事業所と併設していることもあり、利用者同士の交流も出来る限り継続していける配慮をしている。	介護度の高い利用者が多く、馴染みの人や場所へ出掛ける機会や本人希望も減少しており、併設施設や内外行事で知人に会ったり、馴染みの場所へのドライブなどで保つよう努めている。 新しく始まった「オレンジカフェ」「ふれあい交流」の場で、地域の方との新たな関係づくりが生まれつつあり、慣れとなればと考えている。	人員体制もあり、課題として捉えている事であり、場所や人との関係性の個別の支援の充実のために、何らかの方法で可能とする事を期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者同士が共に支え合う事ができるよう席の配置を工夫したり、一緒に余暇活動を楽しめる場面を設定している。また、ご利用者同士が自然に近所付き合いができるように努めており、どんな状況下でも一人一人が孤立しない取り組みを実践している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後もたまに「思い出した」と立ち寄ってくれるご家族がいる。はがき等を送って、行事等気軽に参加出来る様なお願いもしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	それまでの生活スタイルを尊重しながら、より近い生活が送れるよう心掛けている。日常の会話より、ご利用者のつづやきを積極的に拾い、ご家族の面会の際にも情報の集約に努め、その人らしい生活が送れるようにしている。	事業所は「本人の望む生活」を基盤とした支援に注力しているので、職員は共に生活をする中で、本人の意向や思いの把握を心掛け、皆で話し合いながら希望に沿うようにしている。 また、家族からの情報を大切に、家族と職員が「共に本人を支えていく」関係づくりも出来ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	日常のコミュニケーションの中やご家族の面会の際にも、これまでの暮らしの様子を聞き出す努力をしている。入所前の利用していた事業所等、関係者からも情報の聞き取りを積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の申し送りに加え月一回の個別カンファレンスを行い、ご本人の現状把握等、情報の共有に努めている。出来る事を継続していけるように配慮している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人の声やご家族の想い、個別カンファレンスの内容をふまえた、担当職員によるモニタリングや話し合いを経てケアプランに反映させている。	「本人の望む生活」「今の状態の維持、継続」の為の介護計画と意識しており、計画作成に当たっては、必ず家族と相談し、本人本位となるよう努めている。 実施状況や日々の記録は、利用者の様子を全職員が共有できるきめ細かな内容となっており、そして、毎月のカンファレンス及び計画見直し前のアセスメントで課題や満足度の確認をし、次の計画へと繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録にて情報を共有している。特記事項は共同生活日誌にて再確認できるようにしている。まとめた情報は介護計画の見直しに活かしている。記録に関しては詳細まで記載している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人やご家族の要望に応じ受診介助や自宅への外出、買い物等支援を行っている。また、外出支援としてご家族へ福祉車両の貸し出しも行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	傾聴ボランティアや演芸のボランティア等の受け入れや移動図書館の利用、地域小中学校との交流、地区の行事への参加、地区消防団との合同訓練等を実施している。地域交流の場にも一緒に参加して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	週に1度情報提供及び往診、必要時の往診依頼等、かかりつけ医と事業所の連携を密にとっている。外部受診の方についても必要な情報は作成し、ご家族に持参して頂けるよう配慮していることもある。	日々の健康チェックをもとに医療経過記録を丹念に取り、かかりつけ医の往診時にも情報提供し連携を密に図っている。 歯科等専門科の医療機関受診は家族が付き添い同行をし、必要な情報は家族が持参する状況報告書を用意して対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護ステーションに業務委託している。必要な情報共有を行い、密に連携がとれており、ご利用者も職員も安心した生活が送れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には日常の様子を情報提供し、連携に努めている。早期退院に向け医療相談員、ご家族と話し合いの場を設け、退院時の受け入れがスムーズにいくようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご利用者本人の状態やご家族の意向、不安に寄り添いながら、早期の段階でご家族と話し合いを行っている。 重度化した場合、ご本人、ご家族、かかりつけ医、訪問看護とできる事、できない事を相談しながらチームとして看取りを行っている。重度化した場合でも、出来るだけ生活が変化なく過ごせるようにしている。	入所時から本人や家族との話し合いを重ね、方針を共有して終末期の支援を行っている。 また、かかりつけ医が臨終にも立ち会っている。 多くの家族は、住み馴染んだグループホームで最期を迎えることを望み、泊まり込んでの見取りに職員は協力し、他の利用者や職員のケアにも配慮するんとして、最近の2年間で6人を看取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	年に一度の普通救命講習への参加を促進している。急変時のマニュアルに準じて行っている。事故分析も定期的の実施出来る様に会議等で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に防災訓練を実施している。夜間想定訓練も年一回実施。夜間訓練は、地域の方(運営推進会議メンバー)にも参加して頂いている。 消防設備業者による点検や施設内の環境なども適宜確認していただき指導も受けている。 地域防災協定が締結できるよう町の会議や防災訓練に参加し、協力体制を築く努力をしている。	施設全体の防災委員会の活発な活動で、年度目標や重点内容、月別計画を定め防災訓練や消防設備点検に取り組んでいる。 また、グループホームでは、夜間避難訓練に運営推進会議メンバーが参加し地域との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人一人を大切にしたかわりに努めている。尊厳を守る事の重要性を日々の関わりの中で確認し、スタッフ間で話し合い意思の統一に努めている。声かけに対しては職員対利用者の関係は崩さない対応に心がけている。	「馴れ合いはやめよう馴染の関係」、「職員が上に立つ関係はやめよう」、「年長者を敬う関係」と、職員間で日常的に確認をし、意思統一を図り取り組んでいる。 利用者のその人らしい姿を大切にしているという姿勢は支援の全体に貫かれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご利用者が自己決定できるような支援を心がけている。 我慢しない、わがまを言える環境を整えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日々決められたスケジュールではなく、ご利用者のこだわりを重視した自由な過ごし方をさせていただいている。 何がしたいのか？希望に沿った支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご本人の意向を大切に洋服を選んでいたり、理美容の希望に応じている。 さりげない関わりで、季節に合ったお洒落ができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	ご本人の好みやつぶやきを取り入れたメニュー作り、嫌いなメニューや食べにくいメニューは個々に代替えメニューで対応しご本人が我慢しないようにしている。準備や後片付け等も自然な形で日課として参加できるようにしている。誕生日には本人が好きだった物や食べたい物をメニューに入れたお祝い膳を楽しんで頂く。ミキサーの方にも美味しく召し上がれる工夫をしている。	行事食などを工夫して豊かな食事が提供されており、献立は利用者の好みを聞きながら職員が交代で1週間分を立て、栄養士の意見も聞いている。 配膳や介助の折々には声かけや話しかけを行い、また、必要に応じてその場で食べやすく刻みながら、利用者と職員と一緒に食卓を囲み、楽しくゆったりとした食事風景が見られる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士、医師の指導にて食品の工夫をしている。 また、ご本人の好み、健康状態に応じて食事形態等の工夫もしながら、栄養バランスや水分補給に努めている。 食事の時のお茶でも、全員が同じものではなく好みのお茶をお入れしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを実施している。 歯科医の指導を受けた内容のもと、ご本人にあったケア方法、内容としている。 最終的な確認を職員が行い、磨き残しがあれば支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄パターンや生活習慣を生かしての自立支援の実施、極力トイレでの排泄ができるよう支援している。また、ご本人にあった排泄用品を選定している。	トイレでの排泄を基本に、身体機能に応じて歩行器の使用や歩行介助をしてトイレに誘導している。紙パンツやパット類は一人ひとりに合ったものを選定し、購入に当たっては家族の協力を得ている。 なお、夜間の排泄については、布団や歩行器に鈴をつける等で、職員が察知し介助に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	野菜や乳製品等を多く取り入れるなど、献立や水分不足に気を付けたりしている。 体操や散歩など、体を動かす事での便秘予防にも取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	一人一人の希望に応じる事が出来る様に努力はしているが、利用者の重度化と職員体制によっては希望通りに応えれない事がある。 しかし、ゆったりと入れる事で満足感は得られていると思う。	全員が個浴で、浴室は湯船用すのこが用意され、好みの湯加減でゆっくりと浸かれる配慮がある。 利用者ができるだけ自分の力で洗うことを見守り、必要な最小限の介助に努め、一人ひとりが気のすむだけの時間もあり、くつろいだ気分で入浴を楽しめている。	かつては利用者が好きな時間に入浴できる体制であったが、現在は1日3人とし、3日かけて全員が入浴する体制での支援をしており、利用者の希望に合わせた入浴支援の体制が期待される。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の静養は一人ひとり思い思いの場所で休めるように環境を整え、共有スペースのソファや畳コーナーでも安心して休めるようになっている。 夜間もご本人の生活習慣に合わせ、就寝時間も自由にしており、過ごしやすい環境で休める配慮もしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬を預かる場合は必ず処方箋をいただき、カルテに保管し情報を共有している。 薬による副作用や用法、目的は必ず確認し、体調等の変化に早期に気づき、かかりつけ医と連携を取っている。 また、主治医との情報共有にて、必要となくなった薬は出来る限り減らしていけないか相談することに努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	生活の中で一人一人が得意なことや好きなことを見つけそれぞれの役割が出来ていくよう支援している。役割を持つことで生活に張りができていく。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	四季折々の外出計画を立ててご家族も誘い、一緒に出掛ける機会を作っている。最近では車椅子の方が多くなり、一人一人の希望に沿っての外出が困難になってきており、以前よりは外出支援が困難になってきてはいるが、天気の良い日にはテラスに出て屋外でのお茶やレクリエーションを楽しめるように心がけている。	利用者の重度化が進み、外食や買い物外出等は困難になったため、月に1度は行事を計画し全員が車椅子で参加している。 そして、戸外に出かける時はミキサー食や手作り弁当を持参し、家族も大勢が積極的に参加し、一緒に楽しんでいる。 なお、受診や美容院、法事参加等の日常的な外出は家族の協力を得ている。	ボランティアや地域住民の協力等、様々な検討を加えて、一人ひとりの希望に沿った、日常的な外出支援に取り組める体制の整備を期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	以前は自己管理をされている方や買い物等で自分で支払いができるような支援をしていたが、現在は金銭管理の殆どが施設管理となっている事に関しては改善出来ていない状況。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族や知人へ電話をかけたいと希望がある際は電話を掛けられるように支援している。 自分から掛ける事が難しい方は家族からかけて下さる場合もある。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	音、匂い、光等に気を配り、ご利用者が不快な思いをしないよう配慮している。また、生活感や季節感のある飾り付けにも工夫し、一人一人が落ち着ける場所作りに配慮している。 匂いを大切に献立と調理に参加することで、生活感や季節感を感じていただくよう工夫している。 リビングでは四季を感じられる物の配置を会議内でも話し合っている。	リビングは多少雑然としているが、座布団やクッション、エプロン、タオル等は個々人それぞれに用意され、生活感が溢れる居心地のよい空間となっている。 共用スペースに吊るされた洗濯物は、利用者と一緒にそこでたたみ、高齢者が暮らす家庭に近い状態を心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングだけでなく通路スペースのソファや椅子は自由に過ごせる場所となっており、畳コーナーでは好きな時に休めるよう布団も用意していて、思い思いに過ごせるよう工夫している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人、ご家族と相談しながら使い慣れた家具や寝具を持ち込んでいただいている。 ご家族との写真やお孫さんが書いた似顔絵を飾ったりして、ご本人の居心地の良い空間を考えている。 基本的に持ち込み禁止な物はなく、住み慣れた環境に近い空間として頂いている。	各居室に洗面台が設置され、使いやすくなっており、施設的な収納設備等は一切なく、使い慣れた寝具やタンス等の品々が持ち込まれ、利用者が居心地よく過ごせている。 また、家族に必要なものを持参してもらい、本人と家族との憩いの場ともなっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人ひとりの特徴や能力を活かし、それぞれのできる事に参加していただく事で自信を持っていただき、自立した生活を送れるよう工夫している。 車椅子の自走や歩行器での歩行など、それぞれの能力を活かせるような取り組みをしている。 無理しないではなく、出来る事は行っていく事を基本にしている。			